





はじめに

ずっと多賀城で暮らしている人も、
引っ越してきたばかりの人も、
学校や職場と家との往復だけになっている人も、

多賀城での暮らしが今よりもちょっと楽しくなる、
多賀城が今よりももっと好きになる、
そのためにできることのヒントやアイデア、そして取り組んでいる仲間が見つかるガイドブックです。

多賀城市市民活動サポートセンター開館10周年記念イベントとして行われたトークのテーマに沿って、トークの様子や市内で取り組みを行っている団体を紹介します。

いろいろな想いや取り組みを知ること、多賀城のまちが今までと少し違って見えてくるかもしれません。



世代を超えて集う場を地域でつくるカギ 03

取り組み紹介.....	04
株式会社 season	
高崎こども食堂らっこ広場	
高橋地区を盛り上げる会	
多賀城将棋ラボ	
イベントレポート①	06
あなたの見つけたカギを書いてみよう	10

多賀城をもっとおもしろくするカギ..... 11

取り組み紹介.....	12
劇団ボトフ／史都多賀城万葉まつり実行委員会	
多賀城フェスティバル実行委員会	
コミュニティカフェ&ガイドツアー タガの柵	
地域盛り上げ隊 タガレンジャー	
イベントレポート②	14
あなたの見つけたカギを書いてみよう	18

みんなにやさしいまちにするカギ 19

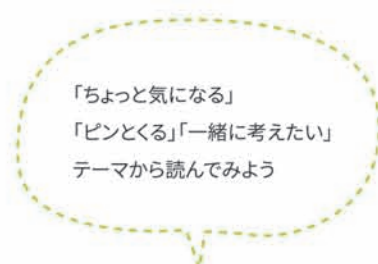
取り組み紹介	20
ハッピーピース	
てんでん宮城	
NPO法人いのちのパン	
多賀城市家庭教育支援チーム「あんだんて」	
イベントレポート③	22
あなたの見つけたカギを書いてみよう	26

うれしいたのしいから見つける未来のカギ 27

取り組み紹介	28
多賀城市国際交流協会ジュニア部	
生涯学習100年構想実践委員会	
多賀城高等学校 ボランティア同好会	
丘の上FM	
イベントレポート④	30
あなたの見つけたカギを書いてみよう	34

たがさぼアーカイブ 35

たがさぼアーカイブ 解説	36
たがさぼアーカイブ 年表	38
付録 たがさぼガイドツアー	40



たがさぼちゃん



世代を超えて集う場を 地域でつくるカギ

核家族化やご近所づきあいの減少などにより、世代を超えた関わりが少なくなっている中、安心して暮らせる地域づくりの取り組みのひとつとして、世代間の交流に注目が集まっています。子どもから働く世代、さらには退職後の世代までみんなが集える場をつくるカギを探ります。





株式会社 season

高齢者と子どもたちが過ごす、介護施設と保育園が一緒になった施設「さくらビレッジ」を運営しています。大好きな祖父の介護と別れを経験したことから「一生、自分らしく人間らしくいられることを支えたい」という想いで、2016年に立ち上げました。関係者だけでなく、たくさんの人との関わりを持つことのできる施設を目指しています。

連絡先

住所：多賀城市桜木2丁目2-22
TEL：022-365-9727



さくらビレッジ 多賀城



代表 渡邊 晃さん

多様な人が集える介護施設

高齢者だけでなく、地域の人たちや子どもたち、スタッフが家族のように過ごせる場所になればいいなと思っています。

デイサービスをしていたときに、スタッフとして働くお母さんが働きやすいようにと、施設に子どもを連れてきてよいことにしていました。それが「さくらビレッジ」につながっています。お母さんの働く姿を間近に見ることで、子どもは「お母さんってこんなに優しい顔をして身体の不自由な人のお世話をしているんだ、お母さんってすごいね」と尊敬の気持ちが芽生えるようです。また、「何かすることある？」と言うようになった子もいました。親子間のコミュニケーションにもなっているんですね。

スタッフの栄養士を先生に、地域の方へ向けて「男の料理教室」も開いています。独身の方や高齢になりかかっている方って、コンビニ弁当やお酒・おつまみが主となってしまう食事が偏りがちなんです。回数を重ねるごとに参加者も「食事がいいね、料理って楽しいね」と思ってもらえるようになりました。施設は、どんな人にとっても良い雰囲気だと思ってもらえるような工夫をしています。家具も座りやすいオーダーメイドにし、レコードを用意したりと家で過ごしているような空間づくりを心がけています。

多様なコミュニケーションを生み出し、そして空間の工夫が多世代が集う場に大事なんだと思っています。



高橋地区を盛り上げる会

高橋東一区、高橋東二区、高橋北区、高橋南区の住民が集まり「高橋地区を盛り上げる会」という懇談会を開催。地域の課題や解決のためのアイデアが話し合われています。これまで話し合いを通して、さまざまな取り組みを実施してきました。



連絡先

TEL・FAX:022-368-7748



金子 昭夫さん
(高橋東一区町内会会長)

みんなでつくる笑顔あふれる地域

もともと高橋の4地区は一緒に夏祭りや文化祭を実施するなどまとまりがありました。今後、少子高齢化が進んでいくということで、2014年度から「高橋地区を盛り上げる会」を実施しています。この会には、町内会役員だけでなく、子ども会やPTAから声がけをしてもらい、地域のお父さん・お母さんが参加したり、高橋地区にある仙台育英学園高等学校にも声掛けし生徒や先生も参加しました。

参加者の意見をなるべく多く取り入れるため、5〜6人程度のグループになり、全員が意見を言えるようにしました。地域の課題を話し合うことからはじめ、目指す地区の理想像をみんなで考え、「地域に暮らす人々や地域で活動する人々が、世代

や所属団体などの様々な立場を超えて交流し、お互いの顔が見えて、お互いが協力し合える関係がつけられていることで、誰にも優しく元気で笑顔があふれる安全・安心な地域」を掲げました。

これまで、子ども、若い人、高齢者と幅広い年代が関われるイベントとして、卓球・餅つき・昔遊び・縁日などを実施してきました。また、住民がみんなで朝ご飯を食べる「サンデーモーニングカフェ」にも継続して取り組んでいます。

その中で高齢者が若い人や子どもに遊び方を教えて一緒に楽しむ姿が見られたり、地域のことに話し合いから参加することができてよかったという方もいました。



高崎こども食堂らっこ広場

多賀城市高崎地区で、月に2回、こどもが無料で夕飯を食べられる「こども食堂」を開いています。長年、小児科医としてこどもを見てきた代表の「こどもが楽しく、安心して、心もお腹もいっぱいになれる場所を作りたい」という想いをきっかけに、2016年9月にオープンしました。

連絡先

代表：石井アケミさん
住所：多賀城市高崎3丁目27-25
TEL：080-9628-4201（大友さん）



副代表 大友みどりさん

らっこ広場

HP

地域の大人の力でこどもの未来を応援

世代を超えて集うには、地域の大人の力が欠かせません。活動を始めた頃は、ボランティアになるべく負担をかけないようにと、準備を丁寧にすぎでいました。ボランティアも活動を重ねるごとに成長し、「私だったらこうする」という想いが芽生えることに気付いてからは、同じ目標に向かって活動していく仲間なのだと思うようになりました。それからは、あえて自分のできることをやらないことにしました。すると、長年調理の仕事に携わっていた方がメニューや調理工程を考えてくれるなど、自主的に活動に関わってもらうことができました。

初めての活動で何をすればよいが戸惑っている方には、「カーテン

を閉めてください」などと具体的をお願いするうちに、私たちの行き届かない部分にも気づいてもらえるようになりました。活動が始まる前に包丁を研いでくれたりと、役割を自分で生み出し活動しています。

また、代表の活動に対する想いをボランティアに伝える機会を設けたり、団体のスローガンを貼り出したりもしています。団体が目指していること・大切にしていることを確認することで、自信を持って活動ができています。

主催者が結果を期待しすぎず、その時集まった人にどんどんお任せすること、その時々を楽しみ、みんなで結果を作り上げていくことが、世代を超えて集うために大切なことだと思います。



多賀城将棋ラボ

主にたがさばを会場に月2回の将棋教室と季節ごとに大会を開催しています。また、沿岸地域（七ヶ浜町・女川町・南三陸町）で将棋を通した住民交流の場づくりを行っています。



連絡先

TEL:090-5067-5191
E-mail:tagashogi@gmail.com

多賀城将棋ラボ

Blog

Twitter



代表 出原 卓朗さん
(アマチュア三段)

将棋がっつり人と人

活動を始めた理由は、ある小学校の先生から学校で将棋をやっている子どもたちがいると聞いたこと、多賀城で将棋を習う場がなかったことです。将棋を教わりたいという需要があるのなら自分でやってみようかな、と気軽に始めてみました。

将棋は90歳のおじいちゃんでも、5歳の子でも、ルールが分かっているだけで将棋盤があれば楽しめる遊びです。たとえ会話をしなかったとしても、相手のことを考えながら指すのでコミュニケーションが生まれます。気軽に交流できるのが将棋のありがたいところですね。教室や大会でも参加者同士の交流は意識しています。例えば対局が終わったら、すぐ次の対局に移るのでは

なく、時間の許す限り話が出来る時間を取るようにしています。別々に来た人が一緒に話しながら帰っていくという姿も見られるので充実感がありますね。参加者から多賀城らしい和やかな大会だね、と言ってもらえたこともありました。

教室や大会は、あまりつくりこまないようにしています。ちゃんとした看板を作ったり、キレイなテキストを用意したりするのではなく、必要最低限の準備だけをしています。私が楽しみたいというのもありますが、これならできるかも、と参加者にも思ってもらいたいです。

自分でもやりたいなという人が増え、それぞれの地域に将棋教室が出来て地域の交流が増えてくれればと思っています。

開館 10 周年プレ企画 Vol.1 2017.11.17-fri-

たがじょうの ミライのこども はなそう

『世代を超えて集う場を地域でつくるカギ』

子どもの居場所を開いている方、若い世代を巻き込んで活動している方、現在子育てをしている方、地域の居場所づくりや相談事業を行っている方などが参加し、子どもからおじいちゃん・おばあちゃん世代までみんなが集える場をつくる「カギ」を探りました。

ゲスト

渡邊 晃さん 株式会社 season 代表取締役社長

ゲスト

大友 みどりさん 石井小児科企画室室長／
高崎こども食堂らっこ広場副代表

コーディネーター

多賀城市民活動サポートセンター スタッフ

たがさば
スタッフ

活動内容と、そこで
どんな交流が生まれて
いるか教えてください。

子育てしながら働いている社員の手伝いができないかと思
ったことがきっかけで、デイサービスと保育園が一緒にな
った施設「さくらビレッジ」を 2016 年に始めました。
子どもから高齢者まで一緒に過ごす場で生まれた世代間
交流のエピソードをいくつか紹介します。



渡邊 晃さん

子ども × 高齢者

脳が萎縮した寝たきりのおばあさんに、何も知らない子どもが絵本を持って「これ読んで」と言ったところ、起き出して絵本を読んであげようとしたのです。医学的には奇跡でした。また、90歳のおばあさんが階段を上る時に、小学生が「どうぞ」と手を差し伸べてくれました。今は誰かと関わる機会が少ないので、高齢者にとっては子どもと触れ合うことが刺激となり、子どもにとってはいろんな大人と一緒にいることで自然と成長するようです。

地域住民 × 高齢者

さくらビレッジでは、地域の人とのつながりを大切にしています。地域には、さまざまな分野のプロが住んでいます。お花やちぎり絵が得意な人にお越しいただいた時には、高齢者にも張り合いが出ました。施設ができて1年なので、地域の人を巻き込んでいくのはまだまだこれからだと思っています。地域の皆さんが集まる場としても活用してもらえたらと思います。

現役世代 × 高齢者

われわれのような現役世代と高齢者が一緒にいることも、実は世代間交流です。高齢の方に戦争の体験や働き方などについて直に聞けるというのは、とても貴重な機会です。一方的にお世話しているだけではなく、教えてもらうことがたくさんあります。その恩返しとして「介護」としてお手伝いさせていただいているという気持ちです。



ゲストの渡邊晃さん



ゲストの友友みどりさん



このイベントをきっかけに「さくらビレッジ」で、ゲストが自分の趣味を語るイベントを開催しました。この日のテーマは「万年筆」。キッチンをお借りしてスコーンとサンドイッチも作りました。



続いて友友さんは
いかがでしょうか？

こどもがひとりでも安心して来られる「こども食堂」をやっています。こどもたちが地域の大人にかわいがられて「ぼく・わたしってすごいな」と、心もお腹もいっぱいになって帰ってほしいという想いで始めました。食堂に留まらず、みんなが集える広場にしたいと考えています。



大友 みどりさん

ボランティアは、ご近所もしくは市内の人

ボランティアは60代～ 70代で、志願してくれた人がほとんどです。ご近所もしくは市内の人に来てもらうことで、こどもに地域で見守って育ててもらっている安心感を覚えてもらいたいという想いがあります。ボランティアには、各々の経験や得意分野を発揮してもらっています。こどもに大人が楽しそうに活動している雰囲気を感じてもらいたいからです。そのために、ボランティアの「私はこうしたい」という気持ちを尊重するようにしています。

調理はできるだけこどもと一緒に ごはんは全員で食べる



地元で野菜を作っている人や、企業やお店からの食材の寄付もあります。調理は食事ボランティアが行い、出来る限りこどもたちにも手伝ってもらいます。ごはんは1歳～70代までが一緒に食べます。

こどもの遊びは見守る

遊びには学習と同じ意味があります。「これをしなさい、これはしちゃダメ」ということはなるべく言わないようにして、ケガをしない範囲で見守ることにしています。側に大人のいる安心感の中で、自分がしたいことを存分にすることができています。遊びボランティアが紙芝居を読んだり、参加者のお母さんが遊んでくれることもあります。

こどもには無理をさせず、大人の姿をみせる

こどもには、食べたいものを食べたい量だけ提供しています。無理をさせないことで、安心してご飯を食べることができます。大人には、自分がおいしいと思ったものを、素直においしいと伝えてもらっています。こどもはそれを聞いて学んでいるようです。楽しかった経験、みんなであれしさを共感した経験を心にためてもらって、自分を大切にする人になってほしいと思います。

参加者からも
お話をうかがい
ました。



Q. 子ども・お母さんの居場所をつくっている方に質問です。活動は、子どもたちにとって、どういう場所になっていますか？

自宅を使って子ども・お母さんの居場所をつくっている方

いつも来ていた小学生は、「休みに来た」と言っていました。私とおはじきをしたり、小さい子が来ると、喜んで遊んでいました。でも、他人の家に入るのは抵抗があるという人もいます。

Q. 地域の中に子どもが集まれる場所があるということについてどうお考えですか？

参加したお父さん

ぜひ子どもを行かせたいです。家族だけでなくいろいろな人たちと交流できる場があったらいいと思います。

Q. 参加者にリラックスしてもらうための工夫は？

地域の人の居場所をつくっている方

小さなことでも「ありがとう」を伝えるようにしています。なぜなら、社会に居場所のない人が来てくれるからです。安心して安全な場を提供したいという想いがあります。毎日利用してくれるのは、10代～30代の人です。

Q. 若い人が来る活動の工夫は？

地域のつながりをつくっている方

アートの側面があると、若い人が参加してくれます。

若者の居場所をつくりたいと考えている方

私の知り合いは、行き場のない子どもや若者の居場所づくりと就労支援をしています。農業をしたり、機織りをおばあさんに教えてもらい、作ったものを販売しています。みんなが集まりやすいように、楽器が置いてあったり手芸部の活動もしています。多賀城にもそういう場所があるといいな、と感じています。

参加者からは、「それぞれの得意分野を活かして活動できる場、みんなが安心して自分の生き方をしていける場をつくっていきたいです」「強い熱意を持って取り組むと、いろいろと助けてくれる人が周りに集まるのだと改めて感じた」といった感想が寄せられました。

「世代間交流」というと、子どもと高齢者の交流が多いですが、その間の世代は漏れてしまうことがあることに、集まった全員が気付く機会にもなったようです。



みんなの見つけた
世代を超えて集う場を
地域でつくるカギ



自分が楽しいと思えることをする。
おしつけない。



みんなが集う場
＝安心できる場



信頼関係



好きなことを
好きなだけ
楽しくやろう！



自分らしく心地よく
みんな輝ける場



自分自身が
たのしめる場所



老若男女だれでも OK
好き楽しいを
もちよれる



マストではなく
ウォントで



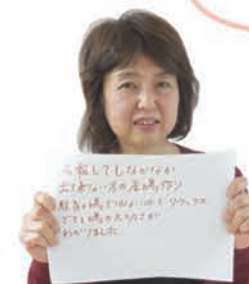
自分も楽しく
自分の得意分野で
安心・安全・リラックス



「ここにいても
良いんだよ」



ずっとここで
笑顔で暮らしたい



広報してもなかなか
出て来ない方の居場所作り。教育の場
ではないのでリラックスできる場の大切
さがわかりました。

— あなたの見つけたカギを書いてみよう —

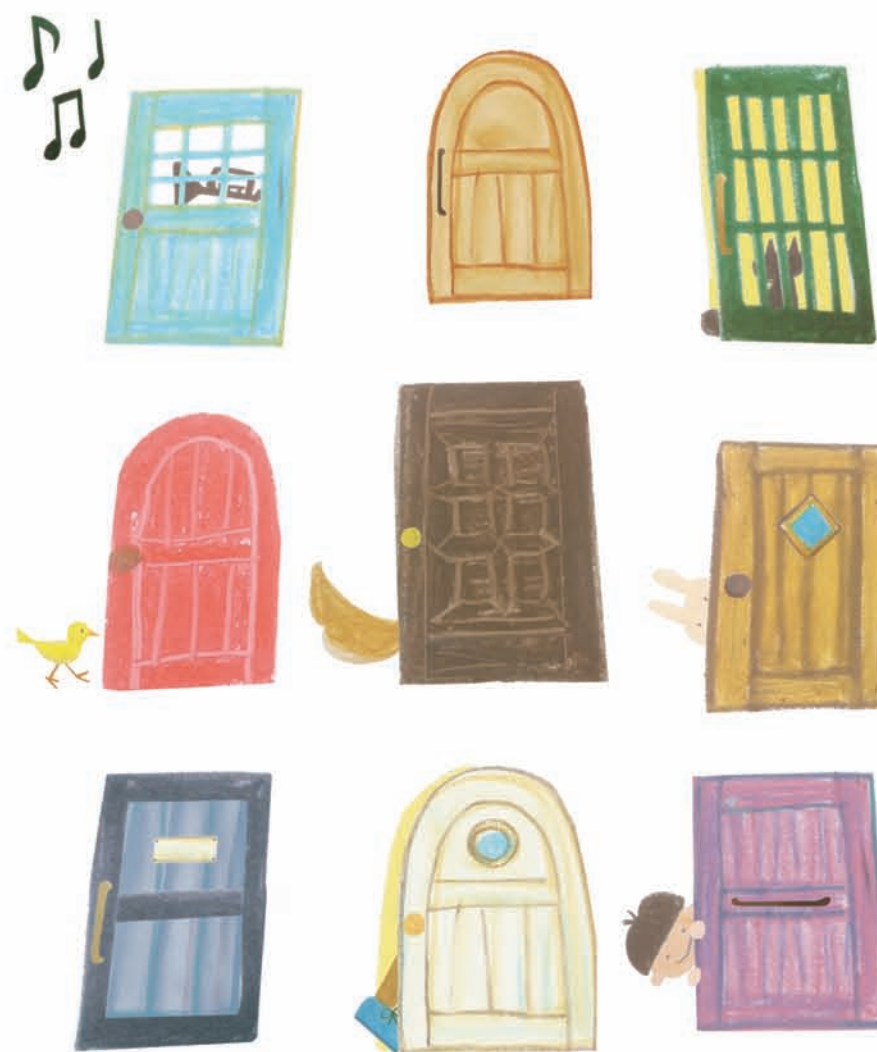
世代を超えて集う場も地域をつくるために

あなたが必要だと思うことは何ですか？



多賀城をもっと おもしろくするカギ

おもしろい人・場・こと・ものが身近にあると、暮らしが豊かになります。
さまざまな視点から多賀城のまちをもっとおもしろくするカギを探ります。

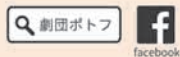




劇団ポトフ／史都多賀城万葉まつり実行委員会

さまざまな活動をしています。メインは劇団ポトフです。学生の頃から合唱や演劇を行っていて、在学中に自然な流れで混声合唱団「薨（いらか）」に入団しました。また、多賀城のイベントをきっかけに市民ミュージカル「劇団ポトフ」を立ち上げました。劇団ポトフとして史都多賀城万葉まつりに参加して、10年ほど前からは実行委員として関わっています。

連絡先
TEL:090-1378-3608



吉田 忠彦さん

多賀城をもっと 女子きになってほしい

活動する中で、多賀城に長く住んでいるのに自分のまちについて知らないことが多いことに気がつきました。多賀城は歴史のあるまちで、史跡や名所旧跡といった魅力がいっぱいあるのに、自分を含めその魅力に気づいていない人が多いと感じます。市民の方に自分の住むまちに対して愛着を持ち、多賀城をもっと好きになってほしい、これが私の活動の原点です。

そのためには、小さい頃から多賀城を好きになる環境づくりも大切です。例えば、幼いときに多賀城の歴史に触れる機会をつくったり、小学校で多賀城の歴史を学ぶ授業をもっと実施すれば、成長して大人になったときにその場所の写真などを見て懐かしいと感じ、

多賀城への愛着が増すのではないのでしょうか。

また、多賀城の魅力をもっと発信することも必要です。まだまだ市民に対するアピール不足を感じますが、多賀城で活動する人は増えていきます。私は活動している人を応援するのが好きなので、もっとたくさんの人にいろいろな活動してほしい。史都多賀城万葉まつりに関わったのは、市民の方が多賀城の歴史に触れるいい機会だと思ったからです。

たがさばには、団体同士がつながりやすい環境が整っています。活動者は自分の活動以外を知る機会が少ないので、ジャンルの違う団体同士をつなぐ立場になってほしいですね。



コミュニティカフェ&ガイドツアー タガの柵

地域活性のため、多賀城にある埋もれた魅力を発信しているカフェです。店内では多賀城のこだわりの商品の販売や歴史・文化を紹介する展示、多賀城ゆかりの本を紹介する「タガの柵文庫」も設置しています。会議やイベントなど、市民が活動で利用できるレンタルスペースもあります。他にも市内ガイドツアーやイベントも開催しています。

連絡先

住所:多賀城市山王字千刈田6-3
TEL・FAX:022-702-3277



代表 松村 正子さん



多賀城の「楽しい」を 考えおもしろさ

結成当初から2年間は、年に1～2回、大きなイベントを行い「自分たちのアイデアがカタチになる」楽しさと、「開催までの準備に時間が取られる」大変さを知りました。さらに、多賀城や近隣の市町で開催されるイベントに多賀フェスとして協力し、他団体とのつながりを築いてきました。今はメンバーが話し合い「多賀城市民が楽しめるイベント」かつ「メンバーも無理せず楽しくできる」というバランスが取れた「たがマルシェ」を2017年4月から主催しています。

立ち上げ当初は20～30代の若者が多く参加していましたが、結婚や子育てなどの理由で離れていった人もいます。一方で、他団体が主催するイベントに協力していると

きに知り合った人が、多賀フェスに加わるといった新陳代謝に似た動きもあり、人数は結成時と同じ十数名です。ちなみに、今のメンバーは30～40代が多く、会社員や自営業の人も参加しています。多賀フェスは一時、活動資金が厳しくなり、今後の活動を考える話し合いをしました。その時、誰からも解散の話はなく、「続けるためのアイデア」が集まりました。これは多賀フェスの活動で大変なこともあったけれど、それ以上に楽しさが上回ったからだと思っています。

これからも、若い世代がイベント運営の楽しさと大変さを知り、アイデアをカタチにする経験が積める団体としても活動を続けていきます。

多賀城フェスティバル実行委員会

多賀城フェスティバル実行委員会（以下、多賀フェス）は、東日本大震災後に多賀城市と商工業関係者が中心となり2013年度まで開催した「多賀城月の市」を引き継ぐ形で2014年4月に結成されました。2018年時点では“多賀城市民が楽しめるイベント”をモットーに、JR仙石線多賀城駅北口で「たがマルシェ」を主催しています。

連絡先
E-mail:taga.fes@gmail.com



代表 菅野 伸昭さん



地域盛り上げ隊 タガレンジャー

マスクにかくれた笑顔がキュートなヒロイン「多賀城あやめ」とトークするヒーロー「ブルータグジョー」、神出鬼没の「マウンテンキング」が、市内にとどまらず県外でのイベントにも参上！多賀城のPRや苗花などの配布や写真撮影など、地域を盛り上げる活動を行っているご当地ヒーローです。

連絡先

マネージャー
TEL:080-3193-7985



代表 タガレンジャー



埋もれている魅力を伝え、 まちも人も輝く地域

多賀城の商品PRの手伝いをしてきたとき、地元の方や多賀城の歴史を学んだ方からいろいろな話を聞くことができました。ある商店が震災後閉店を考える中、その商品が好きなから継続してほしいと地域の人の声を受け営業を再開したこと。県外の方から見ても多賀城は歴史的な魅力があるということ。今まで意識していなかった地元のモノやコトへの見方が変わり、生まれ育ったまちのよさを再認識しました。この魅力を自分の中だけで留めるなんてもったいない！と、伝える側になろうと思いました。まずは、情報収集のために気になるイベントや講座に参加しました。行動したことは人との出会いになり、つながりができ、徐々にやりたいこと

が形になり「タガの柵」をオープンすることができました。

思い描いていることを実現するには、小さな行動から始め、続けていくことが大切です。やりたいことを発信し思いを伝えアクションを起こすことで、仲間になる人・応援してくれる人・支えてくれる人と出会い、自分の背中を押してくれます。

多賀城のような1300年もの歴史がたがっているまちは全国的に見ても少なく、興味のある人だけの場所になっているのはもったいないです。多様で多才な人たちの視点で多賀城を表現・発信できる環境をつくって、育て、整備していくことで、今まで興味がなかった人にも届く、他の市町村とは違った光の当たるまちになると思います。

身近な存在で 地域を応援するヒーロー！

東日本大震災の年、復興祭りに出演していたご当地ヒーローを観覧する人々が笑顔で喜ぶ姿を見たあやめが、「私も震災後、暗くなっている人々を笑顔に、元気にしたい！」と思ったのがタガレンジャー誕生のきっかけでした。

被災地への応援活動を始めたのは、震災翌年のあやめが6歳のときでした。子ども心に抱いた「みんなを元気にしたい」という想いは今も変わりません。

テレビのヒーローのようにカッコ良くはありませんが、ご当地ヒーローらしい親近感を抱いてほしいです。さまざまなイベント会場でタガレンジャーからオリジナルグッズやおもちゃ、お菓子などを手渡しでもらったことが、いつまでも

子どもたちの心の中で思い出として残してほしいと思います。タガレンジャーの想いは、今も決してブレることはありません。

今後、形が変わってもボランティアとして市民のために貢献し、楽しませたいという想いを引き継いでくれる人が出てくれるのが私たちの願いです。いつか私たちが引退しても、子どもたちが羽ばたくための翼の一枚となって見守り続けたいと思います。



開館 10 周年プレ企画 Vol.2 2018.2.25-sun-



『多賀城をもっとおもしろくするカギ』

大学生、中高生、それぞれの視点を活かして多賀城を盛り上げる活動を行っているお二人に、若者の視点からみた多賀城についてお話をうかがったあと、まちをもっとおもしろくするアイデアを一緒に考えました。

ゲスト



木村 達海さん
東北学院大学
工学部3年

ゲスト



鈴木 亜里紗さん
iRIS
高校3年生

コーディネーター



吉田 忠彦さん
劇団ボトフ/
史都多賀城万葉まつり
実行委員会

※所属等は開催当時のものです。
木村さんは都合によりインターネット電話で参加しました。

活動を始めるきっかけは想いとタイミング



多賀城市内の大学に通っています。市内で活動がしたいと思い、一般社団法人復興応援団に入りました。仮設住宅や災害公営住宅に入居し、地域の情報を得にくい方のために、お店やイベントなどの地域情報を集めた情報紙を作成し、手渡し活動をしています。もともと活動したいという想いはありましたが、何をしたいのかわからず、何もできず居心地が悪い思いをしていました。大学に入り、自由になる時間ができて、活動に参加するようになりました。



iRIS という団体を 2017 年 1 月に立ち上げたばかり。多賀城をテーマに学生限定のトークイベントやフリーペーパーの発行を行っています。活動を始めたきっかけの一つは東日本大震災です。当時は小学生でした。祖母の家が全壊し、身近にあるものがなくなることに衝撃を受けました。自分に何ができるのかと思いながらも何もできずにいました。高校生になり、友だちに誘われて高校生の団体が主催するイベントに参加し、高校生でも地域に関わることができることを知りました。小学生のときの想いを思い出し、自分でもやってみようとして団体を立ち上げました。

人に会うことが活動の魅力のひとつ



自分と違う価値観に出会うことで、自分の想いも整理されていくので、人に会うことは大事だと思います。また、専門的なもの、得意なものを持っている人がつながりの中にあるのも強みだと思っています。自分が「こんなことに困っている」と発信すると「自分ができるよ」「できる人を知っているから聞いてみるよ」というように、どんどんつながっていくのが大きな力になっています。自分の可能性を広げるきっかけにもなります。



活動していると学校の中では会えない人に会うことができます。その場その場で会う人が違い、そのたびにいろいろな意見をいただいたので、自分に何ができるのかを考える機会になりました。活動することで、親や先生以外の大人と話すことも増えました。話した中でもらったアドバイスは活動する上での支えになりました。

多賀城をもっとおもしろくする
カギを探すためのヒント



ゲストのお話を聞いたあと、参加者も交えて「多賀城をもっとおもしろくするカギ」を考えました。

学生・会社員・公務員・教師・定年を迎えた方などが参加しました。



イベント当日の様子

カギを探すためにまずは3つのことを考えてもらいました。

質問1

あなたがまちの中でワクワク・ドキドキすることは何？

質問2

あなたがまちの中でがっかりすることは何？

質問3

あなたはふだん何をしていますか？
(暇なとき、時間を使っていること)

参加者からはそれぞれ次のような意見が出ました。

A.1

あなたがまちの中でワクワク・ドキドキすることは何？

住宅地の中に突然はらっぱのような史跡が現れるのがおもしろい。

よりローカルなものに魅力を感じる。

A.2

あなたがまちの中でがっかりすることは何？

公園で子どもを見かけない。犬>高齢者>子ども

コンビニ弁当やファストフードのゴミが道ばたにあった時。

川沿いをジョギングしていると車優先で迂回するような横断歩道があり、歩行者にやさしくないと思うところがある。観光客が歩くのにもやさしいまちになるといい。

A.3

あなたはふだん何をしていますか？

公共施設などに置いてあるチラシを集め、おもしろい人や情報を探している。

情報サイトに頼らない飲食店探し。情報があふれている中で自ら探して発見する達成感を得られる。

月に一回 映画を観る 週に一回 マッサージに行く
日に一回 ワインを飲む

畑を耕している。今後もらった人がびっくりするような野菜を作ってみようと思っている。

多賀城に引っ越してきたばかり。知っているところしか行っていなかったが、みなさんのお話を聞くと、行ったことがない場所にもふらっと行ってみたいと思った。

海に向かって走っている。ボランティア団体が海辺をきれいにしていたり、流木を集めて絵を描いていたりと活動を見ることがある。

参加者からの意見を聞いて



出た意見

の中には、自分と似たようなことに興味を持っているとか、共通することがあるとか、いいなと思うことがあったと思います。また、自分にとっては特技ではなく当たり前と思っていることでも、ほかの人から見るとすごいことだったりもします。あらためて考えてみると自分自身の気付きにもなるし、わくわくするという自分の心から始まることを大事にしたいです。何かやるときには好きという気持ちが根本にないと活動に発展しないと思っています。

好きな気持ちが大切

自分が

経験したことからくる既存概念を取り除くと、突拍子もない考え方が出てきます。がっかりすることでも誰かがやってくれると思うだけでなく、自分が行動することで変わるかもしれないし、わくわくすることも増えていくかもしれません。



活動を

始めてから同世代だけでなく年上の人とも話すようになったり、社会に関心を持つようになり、家族が多賀城のことに関心を持つようになったり、友人が情報を教えてくれるようになるなど、周りの変化も感じています。



まちの

ことを考えるのは難しいように思いますが、そもそもまちは人がいないと成り立たないもの。人とのつながりが未来につながっていく大事なポイントだと思います。まちに住んでいる人がどのように輝いていくのかを考えると未来につながっていくのではないのでしょうか。



まちを変えようにはまず自分から



「多賀城が」ではなく、「自分が」どうありたいかを考えると、自分は何をすべきかが見えてきて、行動に移すことができると思います。一瞬で変えることはできませんが、一つひとつ小さなことからやってみると、後になってから改めて変わったことを実感すると思います。まちを変えるにはまずは自分の行動を変えることからではないでしょうか。そして、自分の思いに共感してくれる人や同じような感覚を持った人が数人でも集まったときに、一気に面白く変わることもあると思います。

今の積み重ねが未来になる



未来というと何十年も先のことと思ってしまうのですが、明日・明後日も未来なので、明日・明後日からできることを考えてみるとよいと思います。

未来を

つくっているのは今の行動だし、今、行動することが未来を変えるにつながると思うので、10年後20年後を考えるよりも、今、自分にできることを考え行動することが確実な方法だと思います。一歩踏み出せない人がいたら一緒にやろうと声をかけ、サポートしたいです。



積み重ねが大きなことにつながっていく可能性があると思います。できないと思わないでやってみることが大事なのではないでしょうか。

みんなの見つけた

多賀城をもっとおもしろくするカギ



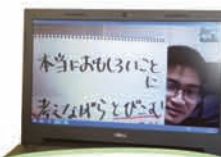
つながり



人との出会い



歩く・発見、明日の多賀城を考える



点と点を
つなげる



人とのつながり



人に種有り
明日どう咲く



話す、聴く、つながる



活動には感謝と応援を。
自分とは会話する時間を。
全ては自分発!!



あたりまえ、常識を
疑ってみる機会を創る。
(市内のあちこちに)



"たがじょうのミライの
ことをはなそう"
からいろいろ発展して
いったらいいなあ



普段の生活の中に
多賀城をもっとおもしろくする
カギがある



今後も話し合いのできる
場所を提供する



一歩前に
ふみ出すこと



できないと思わないで
考える



若者に
挑戦させるまち



人。特に今日ここに
集まったみなさん



人と人が繋がり
チャレンジできる
エネルギーを持つ



世代を越えて
問題やヒントを共有して
行動する。

— あなたの見つけたカギを書いてみよう —

多賀城をもっと

おもしろくするために

あなたが必要だと

思うことは何ですか？



みんなにやさしい まちにするカギ

障がいのある人もそうでない人も、子育て中の人も一人暮らしの人も、引っ越してきた人もずっと多賀城に住んでいる人も、外国から来た人も…「もっと暮らしやすくなるといいな」と感じていませんか。暮らしづらさを感じている人・身近にサポートをしたい人がいる人も一緒に、みんなにやさしいまちにするカギを探ります。





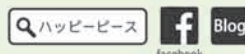
ハッピーピース

発達に凸凹を抱える子どもを育てる保護者がほしい情報、あったらいいなというサービスをかたちにしようと立ち上げました。発達に関する勉強会、交流会、茶話会を開催するほか、相談支援（子育て、発達、兄弟支援、家族ケア）、子育て、発達に関する各種研修・講演活動や自閉症疑似体験・啓発活動などを行っています。

連絡先
多賀城市市民活動サポートセンター内
レターケースNo.20
TEL:080-3190-9802
E-mail:happypeace@gmail.com



代表 本郷 佳江さん



てんでん宮城

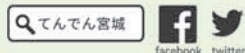
LGBT（※）をはじめとするセクシュアルマイノリティ（性的少数者）が、地域で暮らしやすくなるように活動しています。LGBT 関連団体だけでなく、他の分野で活動する団体との情報交換や、イベントでの LGBT に関する啓発など、さまざまな提案をしながら、暮らしやすさを考え続けています。

※ L（レズビアン）…女性が好きな女性。
G（ゲイ）…男性が好きな男性。
B（バイセクシュアル）…好きになる性別を問わない人。
T（トランスジェンダー）…生まれた時の性別とは異なる生き方をしている人。

連絡先
TEL:090-2985-9904
E-mail:tendenmiyagi@gmail.com



代表 佐藤 夏色さん



当事者・家族・支援者が 安心できる場所

子どもの発達支援について話し合う親の会をつくったことが活動のきっかけです。当時は支援が足りない状況が多く見受けられ、検査を受けて思い悩む保護者の受け皿にとハッピーピースを立ち上げました。

専門機関で子どものことは話せても、夫婦・家族・兄弟・職場など関連していることを相談するのは難しいと感じる人もいます。誰もが遠慮なく安心して話せる茶話会や子どもの特性を理解する仕組み、手立てを伝える勉強会を定期開催しています。紹介されて来てくれる人も多く、学校の先生や保護者の方など橋渡しをしてくれる人が増えたと感じています。

学年が上がるにつれ、求められ

ることが増えてくると周りや違う行動が目立ってきます。さまざまな要因で不登校になると、外部との関わりが薄くなり、子どもも親も孤立してしまいがちです。今抱えている問題や思いを共有する時間の中で、出会った人との関わりを励みに暮らしている人もいます。だから、団体としての発信を絶えずしていこうと思います。

凸凹をなくすのではなく、違いがあったとしても、選択肢は無限にある。ハッピーピースでは、育てづらさの理由やワケを知り、そして誰もが楽に生活できるような手立てを伝えるなど、これからも当事者・家族・まわりの方をつなぐ「通訳」活動を続けていきたいと思っています。

お互いの「困った」を一緒に考え 「みんなにやさしいまち」へ

私は男女で区別されるお風呂やトイレなど、いろいろなことに違和感を持ちつつも我慢してやりすごしてきました。しかし震災をきっかけに、我慢しなければならないことが何倍にも増えて、我慢し続けるつらくなる自分の気持ちを無視できなくなりました。それから自分たちのことは自分たちでやらなければいけないと思い、活動を始めました。

活動では「自分から地域に出向く」ことを意識しています。情報を発信するよりも、人が集まる場所に出向くと、自然と情報交換ができます。こうした場では、相手が困っている場面によく出会います。その相手は会話の中で、当事者である私に対して、何をどの程度配慮し

たらいいのかわからず困っているのです。暮らしの中で「困っている」のは当事者だけではなく、「みんな」とは当事者だけでなく、対応しようとする相手も含めて「みんな」だと思います。お互いに自分の「困った」を言い合えて、一方的に押し付けず、一緒に解決策を考えられる関係が「みんなにやさしいまち」ではないでしょうか。

私は相手の「困った」を見聞きしたら、自分のできる範囲でその困りごとをなんとかしたいと思っています。具体的な困りごとを一つひとつクリアして、そうしてまちが少しずつ変わっていくことで、巡り巡ってそこに住む当事者も過ごしやすくなっていくといいなと思っています。



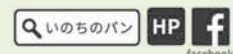
NPO法人いのちのパン

まだ食べられるのに何らかの理由で捨てられてしまう食べ物を、企業、農家、地域の住民から寄付していただき、食べ物がなく困っている人へ届ける「フードバンク」の活動を行っています。生活困窮者や独居の高齢者には、ボランティアが声をかけながら手渡しをしています。市民活動団体、福祉施設などにも必要があれば届けています。

連絡先
住所:多賀城市笠神2丁目11-45
TEL:022-362-7468
FAX:022-362-7497
E-mail:info@breadoflife.jp



副理事長 大友 幸証さん



生活困窮者に食料を 届けるNPO

私たちの活動は東日本大震災の被災者支援から始まり、2012 年にフードバンク事業を開始しました。現在、毎月 100 件の生活に困っているご家庭や、一人暮らしの高齢者などに必ず直接訪問し、食料を届けています。直接訪問しお話をうかがうのは、食料と同じくらい人と人のつながりを大切にしているからです。時には2〜3時間お話をうかがうこともあります。

震災でコミュニティや土地など先祖から受け継いで来たものを失い、生活の糧も失い、今までの生活ができないだけでなく、孤立を深めている人も多くいます。私たちは震災時のつながりも大切に、多賀城や近隣市町村だけでなく、亘理、東松島、仙台市若林区沿岸部な

どへも、今も食料を届けています。活動を継続するためにも、より地域がつながることが大切だと思っています。

現在、継続的にパンの支援をいただいている品目がありますが、品目が足りず購入して配ることもあります。私たちの活動を地域の企業や住民にも知ってもらい、支援をいただけると嬉しいです。また、支援を必要としている方がいましたら教えてください。支援団体や施設にも届けていますが、声をあげられない方もきついていると思います。

活動をする中で、離婚などをきっかけに貧困が始まり、連鎖していく現状を見てきました。家庭のあり方を見つめ直すことが、現在求められているのではないかと感じています。



多賀城市家庭教育支援チーム「あんだんて」

子育て中の親や家庭に対して、地域全体で支援ができる環境づくりのための参加型プログラム「親のみちしるべ」を実施。保育所・小中学校などでプログラムを行うことで、親の心の安定や教育力の向上を目指しています。また、イベントなどでの出張託児、お宅にうかがう訪問託児も行っています。

連絡先
FAX:022-367-5880
E-mail:andante.h285@gmail.com



代表 佐々木 啓通さん



地域みんなが子育てできる 環境づくりの「サポーター」

孤独な子育て、虐待や放任、しつけの悩みや不安。文部科学省では、これらの課題を抱え、支援が届きにくい家庭への支援の充実のために、全国各地で子どもに関わる地域のさまざまな人々たちによる「家庭教育支援チーム」づくりを進めてきました。そんな中、「あんだんて」を立ち上げ、小中学校・保育所などで「親のみちしるべ」の講座を行っています。保育所やピアノの先生、チャイルドマインダー、支援学校免許取得者といった資格を持ち、家庭教育に関心のあるメンバーが協力合っています。

家庭教育支援活動の他に託児も行っています。親御さん自身の通院や子どもの健診・通院などで、子どもと一緒に連れて行くのは控

えたい、兄弟を誰かに見ていてもらいたい。また、ちょっと用事があり子どもを預けて出かけたなど、託児が必要とされる場面はさまざまです。そんなとき頼りになるのが訪問託児です。訪問託児は県内で私たちが初めてです。転入・転出で人の入れ替わりの多い多賀城。若い子育て世代も多い中、頼れる人が身近にいない転勤族のお母さんたちに喜ばれています。今後は、夜まで働く親御さんから要望のある「お泊り託児」を関係機関と一緒に考えていきたいです。

私たちはこれからも子育て中の親や地域をつなぐ橋渡し役として子どもたちの未来を育むお手伝いをしていきます。子育ては自分育ち。一生関わっていくものだから。

開館 10 周年プレ企画 Vol.3 2018.6.23-sat-

たがじょうの ミライのこと はなそう

『みんなにやさしいまちにするカギ』

誰もが暮らしやすいまちには何が必要でしょうか。発達障がいの子を持つお母さん、外国人の支援をしている方、被災者支援に携わっている方、障がい者支援施設で働く方、学生、不登校支援に携わる方、元先生…いろいろな立場の方が参加し、それぞれの視点でみんなにやさしいまちにする「カギ」を探りました。

ゲスト



本郷 佳江さん
ハッピーピース代表

ゲスト



内浦 恵美子さん
多賀城市国際交流協会
ジュニア部部長

コーディネーター



土佐 昭一郎さん
NPO法人
ミヤギユースセンター理事長



お二人の活動や大切にしている
ことを教えてください。



私や他メンバーは発達障がいの子を育てる現役保護者です。発達障がいの子の子育てについて気軽に学んだり、悩みを打ち明ける場がなく、こうした場が必要だと思い活動を始めました。活動をしている中で、むしろ「普通」って何だろうという疑問も同時に生まれています。みんなそれぞれの「普通」があると思うので、発達障がいに限らず、お互いの「普通」を尊重することも必要なかなと思っています。



イベントで外国人と交流できる場や子どもたちに多文化共生を体験できるような場を設けたり、市内在住の外国人の支援をしています。私自身は支援学校に勤めており、子どもたちと関わるうちに放課後の子どもの居場所が限られていることが分かりました。活動のテーマが多文化共生で、どこの国の人も、どんな特徴のある人もみんなで活動するのがモットーなので、外国人の支援だけでなく、コミュニケーションに困難を抱える子どもたちも受け入れています。



ゲスト・コーディネーターのみなさん



多賀城ならではの
居場所づくりのポイントはありますか？



多賀城にも、お母さんが外国人という世帯が多いのですが、生活の支援を呼び掛けてもなかなか来てくれません。自分が困っていることを知られたくない、外国人だからと遠慮している方もいるのかもしれない。まずはジュニア部の活動に親子で参加してもらい、その中でネットワークをつくってもらえればと思っています。また、子どもたちの活動を支えるボランティアということでお母さんたちにも参加していただき、活動を通して居場所ができるのではないかと考えています。



集まる場所をどこにするかということも工夫しています。働きながら子育てをしている方も多いので、仕事が終わってから参加できる場所が必要です。また、たとえばファミリーレストランだと周りの人にも相談ごとが聞こえてしまったりするので、安心して相談できるというのもポイントです。そういう意味では、たがさぼさんはありがたいですね。



多様な人たちが交流し、一人ひとりを
認め合うのに必要なことは何ですか？



支援学級の子どもを通常学級の子どもたちと交流させる、というのはよくありますが、相手のことが分からないとどう関わってよいかわかりません。支援学級の子がどんな状況で、何を不安に思っているか、それぞれの違いが分かればお互い交流しやすいのではないのでしょうか。通訳者（発達障がいのことが分かり、両者をつなぐことができる大人）が増えたらいいなと思います。また、人は認められた経験がないと、他者を認めることは難しいと言われています。違いを認め合うことの大切さに気づいた人から周りを認めるようにしていき、その輪を広げていくことが必要なかなと思います。



人それぞれに違いがあつて当然だということを理解すること、お互いに相手の考え方を否定しないということが大事です。国際交流の良いところは、どんな言語であれ、どんな宗教であれ、どんな考え方であれ、否定しないのです。それは障がいのある人、ない人の関係も同様だと思います。



輪になって話し合うみなさん

トークを受けての参加者の意見

地域づくりの活動をしている方

私が小学校の頃なんかは今という発達障がいの子もクラスにいましたし、みんなと違うなと思いつつも一緒に遊んでいました。隔てずに、同じ空間の中にいることにも意味があるのではないかと思います。

発達障がいの子を育てている方

発達障がいに限らず、うつや病気が多いのは、社会全体の問題として捉えていくことだと思っています。健康面の配慮など、日常生活の中で子どもを苦しめる要素を取り除けるように考えていきたいです。

学生

親戚にも発達障がいの人や、言葉のキャッチボールができなかったり、予測不能な行動を取ったりしていました。どう接したらよいか学ぶために支援学校のボランティアに行きました。交流するためにはもっと学びが必要だと思っています。

被災者支援に携わる方

たとえば災害救助法に基づいて、被災者の状況を世帯主に聞きますが、世帯主がお父さんだったとしたら、お母さんや子どもの状況を十分に把握できていない場合もあるかもしれません。制度や法的な面からも一人ひとりが大切にされるにはどうすればよいか考えています。

福祉施設で働く方

相手を認めるために、ダメと言わないことにしています。なんでそうなったかを考えていかなければいけません。良いことも悪いことも一回受容することが大切です。

不登校支援の方

不登校の子たちは学校の学びだけじゃないと気づき始めているんだと思います。そこに大人の手助けが必要です。学校だけじゃない、いろんな大人たちの頑張っている姿に触れてもらうのも応援になっているのかなと思っています。

発達障がいの大人の支援をしている方

大人になってからの支援も必要だと思い、一緒に楽しいことができるような場を開いています。一つひとつのつながりがみんなを幸にできるんだと思っています。一人ひとりを認めるには、とにかく話を聞き、寄り添うことを心がけています。助言ではなく、話したいことを話してもらってほっとしてもらいます。

地域福祉の仕事をしている方

認知症を知るためのサロンが地域で開かれています。実際に自分が直面しないとなかなか理解してもらえません。理解してもらおうという意味では障がいや外国人支援と目指すことは同じです。手を取り合っていくことが必要ですね。

学校関係の方

チョークの色によって字が分からない色盲の子、精神疾患だと判断されてしまった聴覚過敏の子などがいます。そういうのって知らなければ分かりません。理解が進めばもっと適切に接していけたかもしれません。

精神障がいの家族を持つ方

悩んでいても、隣近所の目を気にして当事者の集まりに参加できない人もいます。悪いことではないのだから、周りの人が優しい言葉をかけられるような社会だといいな、と思っています。

戦争について考える活動をしている方

障がいに関して、今まで身近な問題として関わらずにきました。逆に気遣いとして、手を引いてしまう、遠慮してしまうこともありました。関わりのなかった人が手を差し伸べるようになるには、講座だけでなく日常生活の中で知る機会が必要だと思います。

地域には、さまざまな立場の方、考えを持つ方、困りごとのある方がいます。「みんなにやさしいまち」というのは、お互いのことを理解し、認め合うことでつくられていきます。そして、「みんなにやさしいまち」は困っている誰かのためだけでなく、自分にとっても暮らしやすいまちになります。

みんなの見つけた
みんなにやさしい
まちにするカギ

通訳者になる。
通訳者が増える。

大切なことは
+ プラスでダメ出し
欧米型 note (提案)

大切なことは
+ プラスでダメ出し
欧米型 note (提案)

ひとりひとりが大切に
される世の中に
Love & Peace

ネットワーク

通訳者を増やす！

やさしい距離感を
つくろう

“日常”のきっかけづくり
むずかしい事をやさしく
やさしい事を深く

ひとりひとりを認める

共生

つらいことでも、大変なこと
でも前向きに考えると視点は
変わるかな!? 視点の変換!!

ひとりの人の思いを
大切に。その子の
やさしさを見つめる。

不登校の子どもが
認められるように。

どうしても行けない子がいる実態を
発信までにはいかなくても、
家族として、世間に堂々と社会とのつながりを
保っていきたいと強く感じました。

みんな違ってみんな良い
みんなにわかりやすいことが大切

みんなにやさしいまちにするために

あなたが「必要だ」と

思うことは何ですか？



うれしい たのしいから

見つける 未来のカギ

同じまちに住む人と一緒に何かをして「うれしい」と思ったり、「たのしい」と思ったり。そんな前向きな気持ちでの人と人との関わりが、「このまちに住んでよかったな」と思う気持ちにつながります。未来のまちに、みんなで「うれしい」「たのしい」つながりを広げていくためのカギを探ります。





多賀城市国際交流協会ジュニア部

多賀城市在住の外国人支援、および市内の小学生を対象に、国際感覚を養う活動をしています。外国の文化や言語の学習を通して、多文化共生を体感できる場をつくっています。1998年に、子どもたちの地域活動支援として始まりました。震災以後は、外国籍在住者をつなぐネットワークづくりにも取り組んでいます。

連絡先
多賀城市市民活動サポートセンター内
レターケースNo.29
TEL:022-258-3618(夜間のみ)
FAX:022-309-3706



部長 内浦 恵美子さん



「ありがとう」「うれしい」が 人をつなぐ

活動を始めた当初、応募してくる子どもたちは、帰国子女であったり、外国が好きの人がほとんどでした。ここ10年は、学校に行けなかったり、友達ができないという、コミュニケーションに困難を抱えた子どもの参加が増えました。活動には、子育て世代の女性やその子ども、おじいちゃん・おばあちゃんなど、さまざまな人が参加しています。子どもたちには、お互いに弱い人を尊重したり、否定をせず、大切にすることを伝えているため、自然と友達ができたり、人に優しくできるようになるといった成長を感じています。

外国人には、支援をするだけでなく活動にも協力してもらっており、参加してくれたら「来てくれてあり

がとう。うれしい。」と、感謝の気持ちを伝えていきます。そして、母国語や文化のレクチャーなど、その人に合ったお願いをすることで、はじめは支援される側だった人にも活躍の機会が生まれています。

活動を始めた頃は、市内在住の外国人の名簿をもらい、支援情報を直接伝えることができていましたが、個人情報保護法により、支援が必要な人の所在が分からなくなってしまいました。今では、活動に参加してくれた人同士のネットワークが生まれ、情報交換やお互いを支援することができるようになりました。

子どもから大人まで 学ぶ場を多賀城に

市民の手で学びの機会をつくり、生涯学習の環境を整えようと1995年に団体が立ち上がりました。

年間を通してさまざまな講座などを企画しています。

小学4～6年生対象のクラブ活動「あすなろ教室」では、料理・茶道・自然観察・創作マンガの4つのクラブに分かれて、月1回、学校や学年の枠を超えて活動しています。クラブで学んだことは文化センターまつりなどで発表する機会を設けています。市内の各小中学校から1名ずつが将来の夢について発表する「ゆめ大会」は、未来を担う子どもたちに夢を持って成長してもらいたい、そして大人が見守り応援しようという思いで年1回実施しています。大人向けには市内

の史跡や工場などを巡ったり、体験する企画を実施。普段はなかなか気付かない多賀城のスポットを知ることができると好評です。

名物が少ないと言われていた多賀城に名物を作ろうと考案した「やかもち鍋」は、イベントでの販売に加え、学校で作り方を教える機会が増えています。ふるさとの味として子どもたちに伝える役割を果たしています。

メンバーは、得意なことやネットワーク・フットワークを活かし、企画を考えています。私自身も講座の参加者でした。ちょうど「何かやってみたい」と思っていたところで誘われてメンバーになりました。これからは学んだことを地域に活かす仲間を増やしていきたいです。



生涯学習100年構想実践委員会

多賀城に住む人たちが生涯にわたり学習していく機会をつくることを目的に、子ども向けのクラブ活動や大人向けの体験学習など年齢を問わず学ぶ場を企画しています。多賀城に新たな名物を作ろうと考案したやかもち鍋は市内イベントなどで食べることができます。



連絡先
TEL:090-5834-2386



代表 渡辺 敬治さん



多賀城高等学校 ボランティア同好会

2014年設立。「多賀城・万灯会」や市文化センター「かえっこパザール」、「塩釜みなとまつり」などのイベントにて運営ボランティアとして活動。また、市営鶴ヶ谷住宅での活動や七ヶ浜町の「SEVEN BEACH PROJECT」、各地の災害支援のための募金活動などでは自ら課題を設定し、実践する活動にも取り組んでいます。

連絡先
住所:多賀城市笠神2丁目17-1
TEL:022-366-1225
FAX:022-366-1226
(多賀城高等学校)

大場 有紗さん



橋本 朔良さん



丘の上FM

手づくりラジオ「丘の上FM」で、オリジナルの地域情報番組を制作しています。番組はCDに録音し市内公共施設などに配布し流してもらっています。電波にのせてお届けするラジオではありませんが、たがさばで公開収録を行うなど地域に密着した内容をお届けしました。現在は次のステップに向け活動方法を構想中です。

連絡先
E-mail:yoh23@wm.pdx.ne.jp



代表 渡辺 洋さん

ボランティアは 自分を見直し、成長できる機会

メンバーの橋本 朔良さん(以下、橋)・大場 有紗さん(以下、大)にインタビューしました。

—ボランティア活動を始めたきっかけは？

大:東日本大震災後、新幹線再開の日に線路の近くでプラスバンドの演奏をした時に、「人のためにできることがあるんだ」と思いました。

橋:中学生の時、ボランティア部で活動していた友達のお姉さんが格好よく感じて、私も活動したいと思いました。

—最も心に残っている活動を教えてください。

橋:岩沼市の千年希望の丘での植樹です。高校入学後、初めて活動先を自分で選んで参加して、実りある活動ができました。

大:鶴ヶ谷児童館のこどもまつりです。子どもたちが親しく接してくれて協力して活動できました。また逆に、子どもたちからパワーをもらいました。

—活動を通して、学んだことや得たものはありますか？

橋:自分で考えて行動する力や企画力です。高校では、文化祭の時に「どうすればより良くなる？」と考え、実行できました。

大:コミュニケーション力です。多様な年代の人と関わって、知識や話の引き出し方などを教えてもらいました。

—後輩や、これからボランティア活動を始めたいと考えている人に一言どうぞ！

大:ボランティア活動は自分のできない部分に気づき、挑戦することで自分の可能性の幅を広げることができるので、ぜひ一歩踏み出してください。

橋:誰かのためにやっても、自分に返ってくるものも多いと思います。なのでこれからも積極的に、よく考えて取り組んでほしいと思います。

形にとらわれず 活動の一步を踏み出す

市内にコミュニティFMがあり身近な情報が気軽に入手できればいいのにと、以前から思っていました。東日本大震災で生活が一変し、もっと地域に特化した情報が欲しいと、これまで以上にコミュニティFMの必要性を感じました。

2016年にたがさばの「NPOいちから塾」を受講し、自分の想いを話したことがきっかけで、福祉関係の方やこども食堂を開いている方、これまで出会うことがなかった人となることができ、「いいね！やってみよう！」という声が上がりました。賛同してくれた仲間のアイデアで架空のラジオ番組を作ろう！と、手づくりのラジオ局「丘の上FM」を開局しました。番組はラジオに不可欠な音楽はもちろん、こども食堂の方が子育ての情報を、福祉施設

の方は施設の役割を、進学で多賀城に転居した学生は地域で見つけた魅力を発信しました。身近な情報を発信したことで、ゲストに呼んだ方と困りごとのある市民をつなげることもできました。

コミュニティFM開設は資金集めも場所の確保も容易ではありません。ですが、何もせずにいるよりも長期戦になってもいいからやれることはやろうと思い行動しました。

自分のやりたいことを言葉にして動き出したことで仲間ができ、これまでのラジオの形にとらわれずに工夫とアイデアで、コミュニティFMを少しでも形にすることができました。次の一步を目指して、またいろいろ構想しながら動き出したいと思っています。

多賀城市民活動サポートセンター開館10周年記念イベント 2018.7.22-sun-



ゲスト 西川 正 さん

西川さんの言う「あそび」とは、気持ちや時間、人との関わり方の余裕のこと。公園で遊びを禁止される子どもたち、ひとりで子育てをしているお母さん、職場の人と家族以外に知り合いのいないお父さん……。あそびの少ない社会の中で、どうすれば肩の力を抜いて自然に人が交わることができるようになるのでしょうか。人とゆるやかにつながるうれしさ、地域の人と一緒に取り組むたのしさを感じられるまちにしていけるためのヒント・コツを教わりました。

コミュニティワーカー／
特定非営利活動法人ハンズオン埼玉理事

ゲストトーク 『ゆるーくたのしく「あそび」と「つながり」を生み出す』

「このまちが好き」と思うには、
自分がそこで何かをした思い出が大事

私の住む埼玉県は、地元で愛着を感じるかという調査で最下位です。お父さんは平日働きに出て、土日は家族で過ごしています。つまり、自分の住むまちで何かをしている人が少ないのです。母校に愛着を持つ人が多いように、そこで何かをした思い出がある人だけが、その場所を好きになるという構造だと思うのです。



そこに集まった人と、そこにあるもので遊ぶ

高齢の人は「そこに集まった人と何かをして遊ぶ」という環境の中で育ったので、初めて会った人とも遊ぶことができる人が多いです。実はこれは、まちづくりも同じです。そこにいる人と、そこにあるもので、何ができるかなのだと思います。しかし、今の子どもたちは、そういった遊び方をしていません。土日に家族とだけ過ごすと、家族と先生以外の大人と話す機会がないまま大人になります。これが、今と昔の大きな違いです。外から持ってくること、与えられること、買うことが生活することという暮らし方をしていると、誰とも交わる必要がなく、人は人と出会えなくなってしまうのではないのでしょうか。

禁止される「あそび」

子どもの遊びには、リスクやけんかが伴いますが、今は危険な遊びは禁止されてしまいます。最近の教育や保育の現場では、事業者と利用者という関係が強く、利用者は孤立していることが多くなりました。

利用者同士相談をして問題を解決するということがなく、問題を「苦情」として、事業者にあげるようになります。事業者は苦情につながりそうなことはなくなり、遊びは制限されます。誰かが悪いのではなく、普通に暮らしていると、このようになってしまうということです。

これは公共施設や地域でも同じです。何かが起こると役所に電話をする人が増えるほど、禁止事項が多くなります。たとえばAさんが焼き芋をしていて、Bさんの家に煙が行きました。知り合い同士であれば、交渉して折り合いを付けることができます。

しかし、知り合いでないと、役所に電話をして、役所から焼き芋を禁止されてしまいます。自治がなくなると、禁止が生まれる。つまり、自治ができることと自由に遊べることは同じなのです。禁止が増えると、人付き合い、心や時間の余裕といった「あそび」が消滅してしまいます。

放っておくと自然にバラバラになってしまう暮らしだからこそ、「一緒に」「自然に人がまじりあう」機会をいかにつくれるかがポイントです。



ワークショップ トークフォークダンス



ここからは、中学校で「大人としゃべり場」として実施している「トークフォークダンス」を体験してもらいます。中学校では、生徒と同じ人数の大人に協力してもらい実施しています。二重の輪になって、1分交代でテーマに沿って話をします。相手の話は否定せずに聞きます。



質問は「昨日何をしていましたか」「あなたの尊敬する人」など全10問です。トークフォークダンスでは、同じ問いに対して、みんなから違う答えが出てきます。違いは豊かさです。最初から答えはなく、みんなで次の答えをつくっていくのが、あそびやまちづくりの面白さです。「一緒に」「普段接点を持たない人同士がまじりあう」ことが、人を元気にし、地域に愛着を持って暮らしていくことにつながります。

トークセッション 『多賀城にひろげよう！「うれしい」「たのしい」人とのつながり』

西川さんと、市内で活動するみなさんに、人とのつながりづくりの取り組みについて伺いました。（各ゲストの団体紹介は、P4、P5、P28に掲載しています。）



ゲスト 内浦 恵美子さん

多賀城市国際交流協会
ジュニア部部長
外国人の支援や市民対
象の国際交流活動をし
ています。母国語で料理を教えら
うプログラムが好評です。テーマが「多
文化共生」であるため、どんな人も
受け入れて、お互いを否定せずに大
事にすることの大切さを伝えています。
子どもが生まれ社会と接点を持つ機
会が少なくなったお母さんも、丸ごと
受け入れています。



Q.

どの活動も作って食べていましたね。「一緒に食べる」ということは、信頼の気持ちを育むのだと思います。また、ボランティア活動の長続きの秘訣は、共に何かをすることなのだろうと思いました。みなさん「安心で
きる場所にしたい」と言っていました。安心できない場面に遭遇した際に工夫したことはありますか？



活動中、座っていられな
い子がいます。スタッフに
は「ここは教育の現場で
はないのですが、目の前で寝られると
他の子の気が散ってしまうから、寝転
べる場所をつくってあげましょう」と伝
えています。また、何でも拳手をする
子は、授業では邪魔にされることが
ありますが、活動では「いっぱい分かっ
てすごいね」と、できていることを伝
えるようにしています。



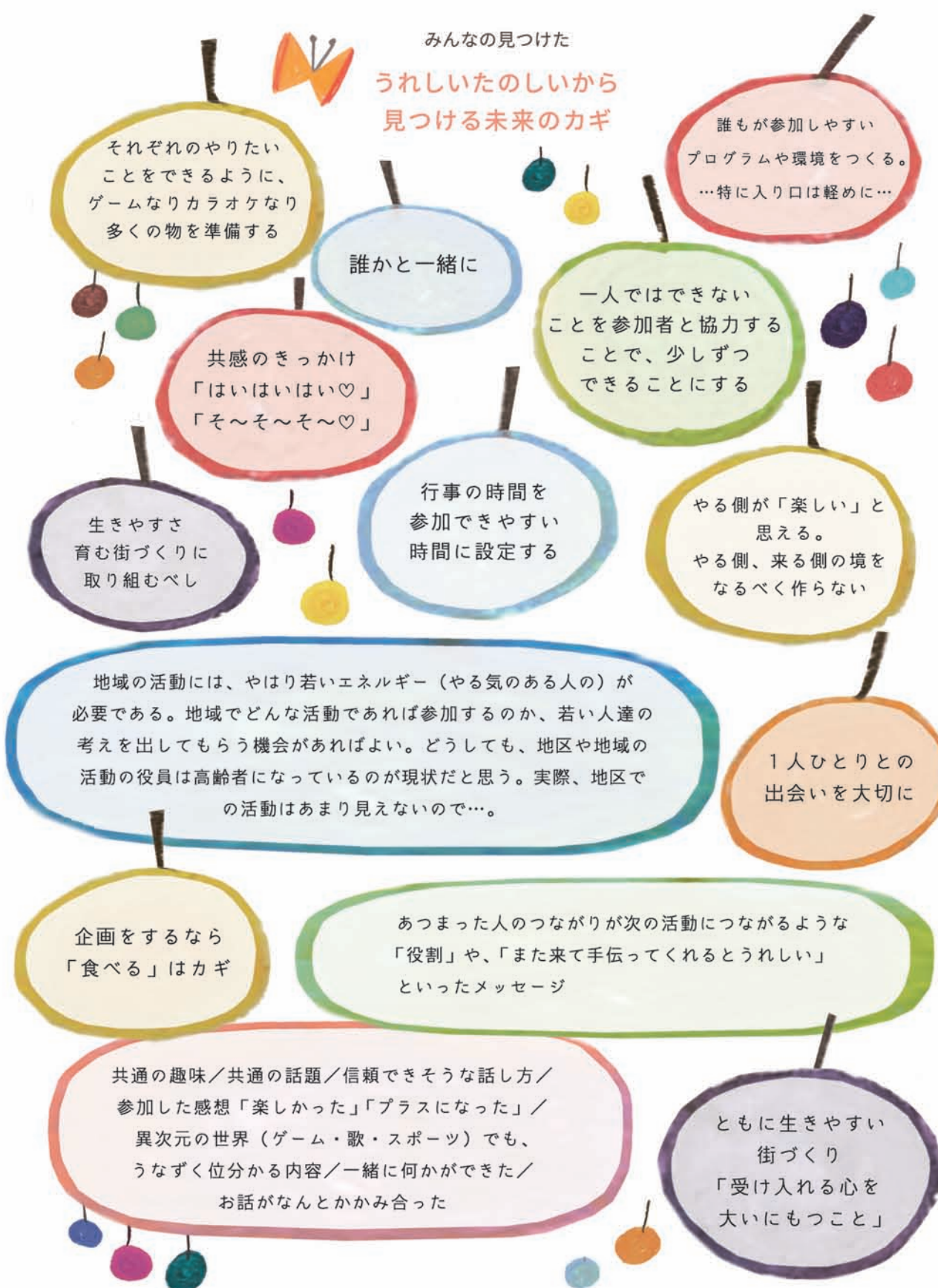
2人の小学生が、物やボー
ルを投げて小さい子どもに
ぶつかってしまうことがあ
りました。遊びを制限されるのは苦痛
なのではないかと思い、親に正直に
伝えたところ、親は子どもと話し合っ
てくれました。結果、2人とも卒業を
選びました。「頭では分かっているの
だけど、楽しくなると投げてしまう。
大人になったらボランティアとして参
加したい」と言ってくれました。



会場まで来ることが大変な
高齢者がいます。自分の車
を出すと、安全・責任とい
う点で難しいと思います。包括支援セ
ンターに、必要な時に一緒に来てもら
えないかと相談しています。

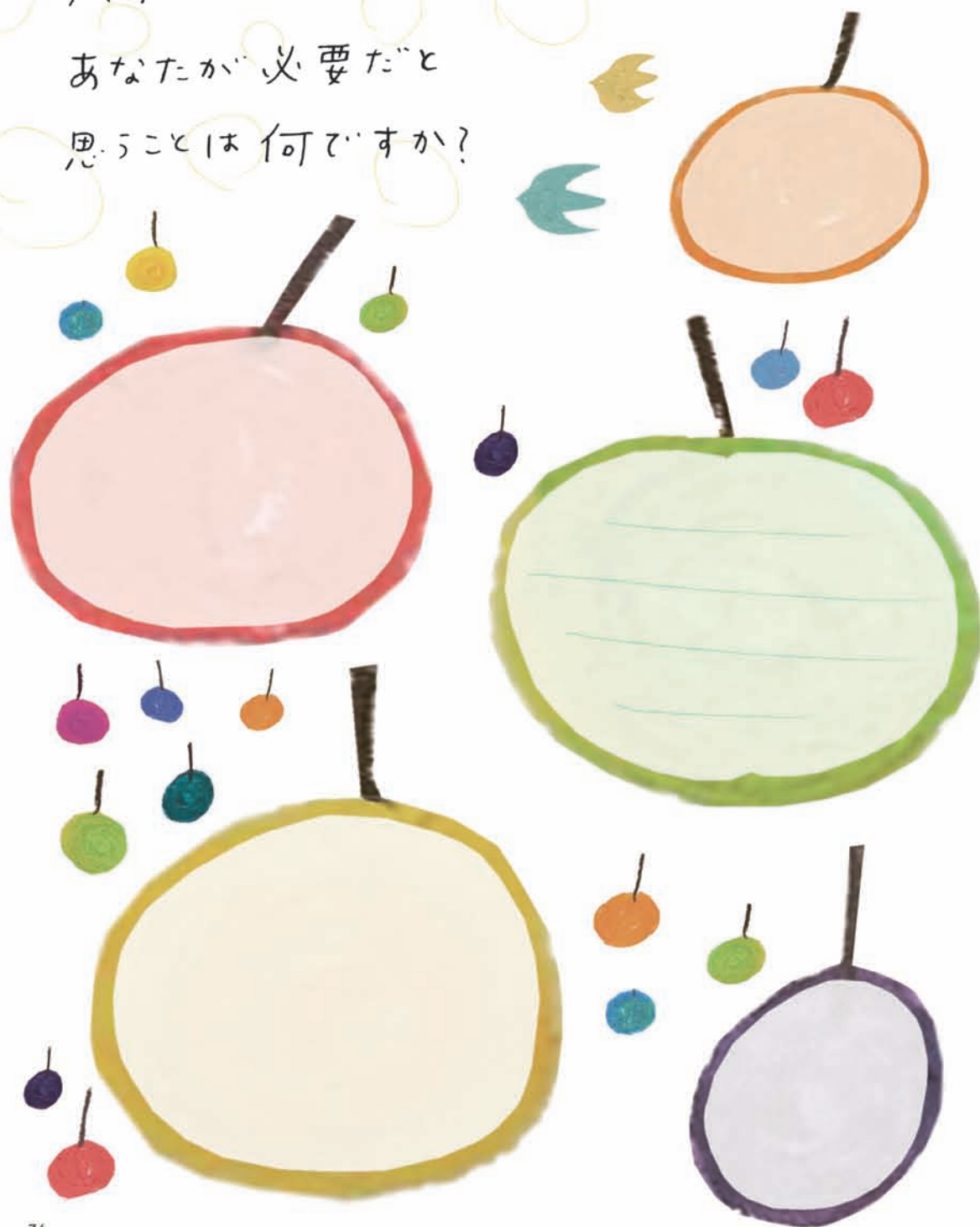


最後に全員で、「これが、うれしさ・たのしさを生み出すカギだ」と思ったことを紙に書き、2
人1組のペアを何回か交代して、意見交換をしました。参加者からは、「1人ではできなくとも、
何人かで組んでやればできるんだなと思いました。」といった感想が寄せられました。プレイベ
ント「たがじょうのミライのことをはなそう（全3回）」を通して、一番多く上がったカギが「人
とのつながり」でした。その「人とのつながり」を考えた今回のイベントでは、みんなで一緒
に何かをすること、どんな人も、ありのままの自分で誰かと一緒にいられることが、地域の中
で「うれしい・たのしい」気持ちを感じて暮らせるようになるカギだというお話がありました。
関わり方の小さな変化の積み重ねが、まちに住む人の暮らしやすさにつながります。



—あなたの見つけたカギを書いてみよう—

未来の暮らしに
「うれしい」「たのしい」つながりを
広げていくために
あなたが「必要だ」と
思うことは何ですか？



たかばさほ° アーカイブ°

多賀城を元気なまちにする活動や想いを応援する、多賀城市市民活動サポートセンター開館から10年の主な動きの記録です。

多賀城で活動する団体やまちの動きとともにふりかえります。



主なトピック

2005年

市民協働の積み重ね～ワスリート・ワーキング合同会議

2005年6月、市民活動促進の方策を考えるため、多賀城市は「多賀城市市民活動を進めるワスリート会議」の委員を公募するとともに、庁内においても「多賀城市市民活動を進めるワーキング会議」に参加する職員を募集し、市民活動促進の必要性や方策などについて検討を依頼しました。集まったのは、福祉や子ども、環境などの活動実践者10名と、さまざまな担当課から集まった10名の市職員。のべ9回にわたり市民と市職員とが一緒に、市民活動や協働の本質の確認や必要な支援策の検討をワークショップ形式で行いました。議論の結果は「多賀城市市民活動の促進に向けて」という提言書にまとめられ、2006年4月市長に報告されました。

2008年

活動の拠点が誕生～開館

生涯学習支援センターの役割を変えるかたちで、2008年6月1日(日)に開館しました。オープニングイベントは、地域で子育てを応援する場をつくる神奈川県のNPO法人びーのびーの理事長の奥山千鶴子さんによる「市民活動発!! ちょっと先行くコミュニティづくり」と題した基調講演と、市内で活動する方によるパネルディスカッション「サポセンはみんなの応援団 多賀城の未来を創る、変える、変わる」が市民活動団体・自治会・市関係者など135名が参加して行われました。「団体運営に役立つ講座への参加や情報収集などはこれまで仙台に行かないとできなかったが、これからは多賀城でもできるのがうれしい」「いろいろな団体と交流できることを期待している」「子どもから高齢者まで幅広い年代の方でにぎわう場になってほしい」など参加者から期待の声が上がりました。

市民活動のことを知るきっかけづくり～出前サポセン

来館される利用者を待つだけでなく、地域のイベントや地区公民館などへの出張は出前サポセンとして開館当初から取り組みました。2009年には自治会と協働で実施。企画段階から打ち合わせを重ね、その地区の特性や課題に沿ったプログラムを考えました。毎回その場で市民活動のことを知っていただいたり、相談に発展することもあります。

課題を探る～調査事業

2008年度には市民活動調査、2009年度には地元企業による地域貢献・社会貢献調査を行いました。震災を経て、2015年からは自治会の活動調査を開始。2017年度には地元企業に対する貢献活動調査を再度実施しました。結果は事業などに反映させています。アンケート調査だけでなくヒアリングを取り入れ、各主体との関係づくりの機会にもなりました。

提案してかたちに～自主事業

必要な事業は市に提案し、かたちにしています。例えば、市民活動団体や自治会運営に役立つ図書の貸出・閲覧ができるように「たがさば文庫」を開設。市民活動団体が作成した報告書などの成果物を販売できる、購入できる場所が市内に少ないことから委託販売を行う「たがさば書店」を開設しました。

2011年

東日本大震災

建物などの大きな被害はなかったものの、安全が確認できるまで閉館を余儀なくすることになりました。被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクトと協力し、避難所で見えにくいニーズを探り、支援につなぐ調査などを行いました。またNPOが取り組む支援の情報が被災された方に届きにくい状況があることから、助成金を申請し印刷代を確保し、震災復興応援情報誌「えん+じん」を発行。市の広報配布のルートを活用し全世帯へ配布しました。

2013年

開館5周年

たがさばを活用して活動を始めたり、団体同士がつながって活動がパワーアップするなど、開館からの5年間で生まれた動きをまとめた「たねまく」を発行しました。

2014年

リニューアル

工事は開館しながら行われたため、利用が制限され、利用者のみなさんの協力を得ながら進められました。リニューアル後は、エレベーターが付き、高齢の方、車いすの方、ベビーカーの方、大きな荷物のある方でも安心して利用できるようになりました。増設されたスペースでは、打合せなどに利用できるフリースペースとして、また活動のPRができるギャラリースペースとして活用されています。お披露目の機会としてリニューアル記念イベントを実施しました。

地域づくり支援制度モデル地区での役割

多賀城市が定めた「地域づくり基本方針」に基づき、自治会の単位を超えて複数の自治会が合同で地域のことを話し合う新たな取り組みが始まりました。自治会の役員だけでなく、地区内の学校に通う学生や事業者の方、引っ越してきたばかりの方など、さまざまな方が参加する話し合いのお手伝い役として、月1回スタッフが地域におじゃましました。参加した方みんなが話せる工夫やたくさんの意見の中から決める方法などをお手伝いしました。話し合いの中から、地区の方が気軽に顔を合わせられる場が生まれたり、地区に新たにに関わる方が出てきています。

2018年

10周年記念事業

さまざまな立場の人が話し合う中から、これからの地域づくりのヒントを見出そうと、3回のプレイベントを経て、記念イベントを実施しました。

この10年で相談や講座受講をきっかけに40の活動がこのまちに誕生しました。

西暦 平成	たがさぼの動き	多賀城市内の動き	宮城県内の動き	社会の動き
1995 7		□ 生涯学習100年構想実践委員会設立		● 1月 阪神・淡路大震災
1998 10	アイコンの種類 ◆市民活動サポートセンタートピック ○市民活動サポートセンター実施事業 ●市民活動に関する主な出来事・制度など □本書で取り上げた団体の設立	アイコンの種類 □ 劇団ボトフ設立 ● 多賀城碑が国の重要文化財に指定される	アイコンの種類 ● 12月 宮城県の民間非営利活動を促進するための条例制定	アイコンの種類 ● 2月 長野五輪 ● 3月 特定非営利活動促進法成立 ● 12月 特定非営利活動促進法施行
1999 11		アイコンの種類 □ 多賀城市国際交流協会設立 ● 東北歴史博物館開館	アイコンの種類 ● 4月 宮城県の民間非営利活動を促進するための条例施行 ● 6月 仙台市市民活動サポートセンター開館	
2000 12			アイコンの種類 ● 10月 宮城県民間非営利活動促進基本計画策定	アイコンの種類 ● 4月 介護保険制度開始 ● 11月 児童虐待の防止等に関する法律施行
2001 13	アイコンの種類 たがさぼちゃん	アイコンの種類 ● 国府多賀城駅開設 □ 史都多賀城万葉まつり実行委員会設立	アイコンの種類 ● 4月 みやぎNPOプラザ開館	アイコンの種類 ● 9月 米同時多発テロ ● 10月 認定NPO法人制度施行 ● 10月 DV防止法施行
2002 14				アイコンの種類 ● 5月 サッカーワールドカップ6月 ユーロ杯共同開催
2003 15				アイコンの種類 ● 7月 宮城県北部地震 ● 9月 指定管理者制度導入開始
2004 16			アイコンの種類 ● 気仙沼市民活動支援センター開館	アイコンの種類 ● 10月 新潟県中越地震
2005 17		アイコンの種類 ● 4月 総合体育館指定管理 ● 7月 アウトソーシング実施基本プラン策定 ● 7月 ワスリート・ワーキング合同会議 ● 11月 市民活動団体活動現状調査	アイコンの種類 ● 石巻市NPO支援オフィス開館	アイコンの種類 □ ハンズオン！埼玉設立 ● 2月 京都議定書発効 ● 4月 個人情報保護法全面施行
2006 18		アイコンの種類 ● 3月 提言書「市民活動促進に向けて」提出 ● 6月 市民活動促進指針策定 ● 8月 市民活動支援センター3月 ター設立検討委員会 ● 市民活動団体助成事業	アイコンの種類 ● 塩竈市協働推進室開館 ● 名取市市民活動支援センター開館	アイコンの種類 ● 4月 障害者自立支援法施行
2007 19	アイコンの種類 もうすぐ！	アイコンの種類 □ season設立 ● 3月 「仮称 市民活動支援センター設立に向けての提言書」提出 ● 7月 教育委員会社会教育施設アウトソーシング推進指針策定 ● 10月 地域経営アドバイザー設置 加藤哲夫氏 就任（～H23年8月）	アイコンの種類 ● 県内NPO法人数500団体に	アイコンの種類 ● 団塊世代の大量退職始まる
2008 20	アイコンの種類 ◆ 6月1日 開館 ○ 開館記念行事 ○ 人材育成事業 ○ NPOいちらから塾 ○ NPOマネジメント講座 ○ 共同事務室入居団体交流会 ○ ネットワーク形成事業 ○ パートナシップフォーラム ○ 誘導・啓発事業 ○ 出前サボセン ○ ボランティア相談会 ○ 調査・研究事業 ○ 市民活動調査 ○ 情報誌「た+す+と」発行 ○ 委託図書館販売【自主事業】 ○ ブログ開設【自主事業】	アイコンの種類 ● 6月 市民活動サポートセンター条例施行		アイコンの種類 ● 6月 岩手・宮城内陸地震 ● リーマンショック ● 年越し派遣村 ● 12月 新しい公益法人制度施行

西暦 平成	たがさぼの動き	多賀城市内の動き
2009 21	アイコンの種類 ○ 開館1周年記念事業 ○ 地元企業による地域貢献・社会貢献調査 ○ 市職員研修事業 ○ 協働研修 ○ ホームページ開設 ○ たがさぼ文庫開設【自主事業】	アイコンの種類 ● 3月 まちづくり懇談会（～H22年7月） ● 「おらほのまち彩発見こみゅにていプロジェクト（愛称：こみプロ）」（～H22）
2010 22	アイコンの種類 ○ 人材育成事業 ○ 地域づくりいちらから塾 ○ 地域づくりパワーアップ講座 ○ 参加啓発事業 ○ さぼせんカフェ ○ 鶴ヶ谷地区防災マップづくり ○ たがさぼフェスタ	
2011 23	アイコンの種類 ◆ 震災の影響により、4月11日～仮開館、6月2日～正式開館 ◆ H23～25年震災復興支援方針策定 ○ 自治活動支援事業 ○ 被災地区コミュニティ再生・強化プロジェクト ○ 情報誌「えん+じん」発行 ○ 大代地区公民館支援事業 ○ イベント支援事業 ○ 復興にかかる2イベントの支援 ○ ネットワーク推進事業 ○ セツ浜再生プロジェクト参加 ○ ツイッター運用開始【自主事業】	アイコンの種類 ● 第5次総合計画（～H32） ● 復興計画（～H32） ● 4月 文化センター指定管理 ● 地域経営アドバイザー 櫻井常矢氏 就任（～H29年3月）
2012 24	アイコンの種類 ○ 自治活動支援事業 ○ 情報誌「tag」発行 ○ 活動お役立ち専門相談 ○ 参加啓発育成事業 ○ 復興いちらから塾 ○ 小さなプロジェクトを起こそうプロジェクト ○ 活動を起こすためのノウハウ集「I PPO」発行 ○ ネットワーク形成・推進事業 ○ 被災地支援ネットワークづくり	アイコンの種類 ● 市職員と被災町内会とで震災ふりかえり事業実施 ● 8月 地域支援員導入 □ タガレンジャー結成
2013 25	アイコンの種類 ◆ 改修工事 ○ 参加育成事業 ○ サロン系事業 ○ はじめる広場トークタイム ○ 5周年記念事業 ○ 「たねまぐ」発行	アイコンの種類 □ てんでん宮城設立 ● 5月 地域づくり支援制～3月 度検討委員会 ● 11月 新多賀城駅舎開業 ● 12月 大代地区こみプロ～3月 学習会
2014 26	アイコンの種類 ◆ リニューアル ○ リニューアル記念イベント ○ 参加育成事業 ○ 地域づくりサロン ○ 地域づくりのはじめかた ○ 自治活動支援事業 ○ プロジェクトを起こそうプロジェクト ○ 地域連携事業 ○ 地域課題の把握のための場づくり（高橋地区懇談会サポート）	アイコンの種類 □ 高橋地区懇談会開始 □ 多賀城棋ラボ設立 □ 多賀城フェスティバル実行委員会設立 □ タガの樹設立 □ ハッピーピース設立 □ 多賀城高校ボランティア同好会 設立 ● 地域づくり基本方針策定 ● 地域づくり支援制度モデル地区（高橋） ● 大代公民館指定管理 ● 秋 災害公営住宅入居開始

宮城県内の動き	社会の動き
アイコンの種類 ● 栗原市市民活動支援センター開館	アイコンの種類 ● 5月 裁判員制度始まる
アイコンの種類 ● 県内に認定NPO法人誕生 ● 柴田町まちづくり推進センター開館	
アイコンの種類 ● NPO法人認証等の事務処理権限を栗原市へ委譲	アイコンの種類 ● 3月 東日本大震災 ● 福島第一原発事故
アイコンの種類 ● とめ市民活動プラザ開館 ● 岩沼市市民活動支援センター開館	アイコンの種類 ● 復興庁発足
アイコンの種類 ● NPO法人認証等の事務処理権限を大崎市へ委譲 ● みやぎNPOナビオープン	アイコンの種類 ● 4月 障害者総合支援法施行
アイコンの種類 ● 4月 消費税率8%に ● 12月 特定秘密保護法施行	

西暦 平成	たがさぼの動き	多賀城市内の動き	宮城県内の動き	社会の動き
2015 27	アイコンの種類 ◆ Wi-Fi導入 ○ 参加育成事業 ○ 雑貨市 ○ 自治活動支援事業 ○ 地域づくり実践塾 ○ 地域連携事業 ○ 地域づくり基礎調査	アイコンの種類 □ いのちのパン設立 ● ひと・まち・しごと創生総合戦略（～H31） ● 地域づくり支援制度モデル地区（高橋／志引・東田中） ● 市民が創る文化のまち創生事業 ● 4月 児童発達支援センター 開所 ● 多賀城Cオープン ● たがじょうすくっぴープラン2（～H32） ● 高齢者福祉計画（～H29）	アイコンの種類 ● 宮城県民間非営利活動促進基本計画（第4次）策定 ● 5月 仙石線全線復旧	アイコンの種類 ● 4月 子ども・子育て支援新制度施行 ● 4月 介護保険制度改正 ● 4月 生活困窮者自立支援法施行 ● SDGs国連サミットで採択
2016 28	アイコンの種類 ○ 参加育成事業 ○ 地域人材育成	アイコンの種類 □ 高崎こども食堂らっこ広場設立 □ 多賀城市家庭教育支援チーム「あんだんて」設立 □ 丘の上FM設立 ● 3月 多賀城市図書館オープン ● 3月 世界絵本フェスタ ● 4月 多賀城高校に災害科学科新設 ● 仮設住宅解消 ● 地域福祉計画第3期（～H32） ● 介護予防事業が新しい総合事業に段階的に移行 ● 創造都市ネットワーク日本（CCNJ）への加盟	アイコンの種類 ● 10月 富谷市誕生 ● 11月 利府町起業・創業支援施設開館 ● 3月 宮城県民間非営利活動促進基本計画改定（第4次）（H28～32）	アイコンの種類 ● 1月 マイナンバー制度施行 ● 東日本大震災から5年 ● 参議院改選 公職選挙法改正（選挙権が18歳以上に） ● 4月 障害者差別解消法施行 ● 4月 熊本地震
2017 29	アイコンの種類 ○ 開館10周年記念事業 ○ プレイイベント ○ 課題解決のための連携モデルづくり ○ 地元企業のCSR調査 ○ 自治会・町内会の課題・取り組み事例調査 ○ 多様な主体による参加型課題解決の仕組みづくり ○ 人材育成 ○ NPOきっかけ塾 ○ 情報発信強化 ○ 市民の発信力強化	アイコンの種類 □ iRIS 設立 ○ 文化センター・埋蔵文化財調査センター30周年		アイコンの種類 ● 認定・仮認定NPO法人数が全国で1,000団体を超える
2018 30	アイコンの種類 ◆ 開館10周年	アイコンの種類 ● 東大寺展開催	アイコンの種類 ● NPO法20周年記念フォーラムin東北開催	アイコンの種類 ● 国民投票投票権が18歳以上に ● 1月 休暇預金等活用法施行 ● 平成30年7月豪雨 ● 9月 北海道胆振東部地震
2019 31 （5/1～新元号）				アイコンの種類 ● 5月 新天皇即位 ● 10月 消費税率10%に ● ラグビーワールドカップ日本開催
2020 2				アイコンの種類 ● 東京オリンピック・パラリンピック開催
2021 3		アイコンの種類 ● 市制施行50周年 ● 第6次総合計画		アイコンの種類 ● 東日本大震災から10年
2024 6		アイコンの種類 ● 多賀城創建1300年		
2025 7				アイコンの種類 ● 2025年問題団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）へ ● 大阪万博

※事業は開始した年のみ記載

付録

たがさぽ ガイドツアー

たがさぽは、地域のために活動している人、
これから活動したい人を応援する施設です。
たがさぽのおすすめの使い方を
ご紹介します。

多賀城の
イベントや地域づくり
に関する情報収集が
できます



チラシラック

地域で活動する団体
のチラシ・パンフレット・
冊子を自由にお取り
いただけます

団体情報ファイル

県内外約 2,100 団体
のパンフレットやチラシ・
情報誌などを自由にご覧いた
だけます。活動先・連携
先をお探しの方に

相談ができます

ツイッターも
やってるよ



ブログ

町内会・市民活動に
役立つ情報や地域のイベント
を発信しています



たがさぽ文庫

地域づくりに関
する本が約 1,000 冊。
貸出もしています



ホームページ



たがさぽを使う

tag

月間フリーペーパー「tag」

まちを元気にする活動
の情報をお届けしています。
市内公共施設・スーパー・コン
ビニなどで配布中。ホーム
ページからも見ることも
できます



地域での活動、
NPO・ボランティア
活動、団体の立ち上げ・
運営に関する相談が
できます



イベントに参加して
いろいろな人や
情報に出会えます



活動している人の
話を聞いたり、活動を
始めるきっかけになるような
催しを行っています。詳しくは、
ホームページ・ブログを
チェック!

いいね!

打ち合わせや
作業、展示など
ができます

予約不要・無料で
ご利用いただけるスペース
があります。展示・イベント会場
にもご利用いただけます(窓口
までお問合せください)。有料
の貸会議室もあります

お気軽にたがさぽまで
お越しください



おわりに

今、私たちを取り巻く状況は大きく変わろうとしています。
少子高齢化が進み、今まで通りにはいかないことが出てくるかもしれません。
しかし、ここで紹介したように、多賀城にはたくさんの思いあふれる人たちがいます。
こうした人たち、これを読んでいるみなさん一人ひとりが手を取りあって
多賀城のまちをつかっていければ、みんなが幸せに暮らせる未来が待っています。



多賀城市市民活動サポートセンター(たがさぽ)
〒985-0873 宮城県多賀城市中央2丁目25-3
TEL:022-368-7745 FAX:022-309-3706
URL:https://www.tagasapo.org/

発行:多賀城市
編集:特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
2019年3月発行

